

Fontaine

vol. 34

発行日 2012年1月15日
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

年の初めを ことほ 言祝いで

岸和田文化事業協会

会長 松本 則子



年の初めを^{ことほ}言祝いで幸運を祈りましょうと、相撲取りが横綱を受ける時のような四字熟語に頭をめぐらしていると、目がぐるぐる回って、頭の中はカラカラカラッポと鳴っています。

ところで皆さんに届いた年賀状の今年の干支は「龍」「竜」「辰」のどれでした。元々は「辰」だったそうです。木が茂り形を整えるという意味があるらしいのですが、庶民に干支を浸透させるために「龍」と言う字を使ったと物の謂われ事典に書いてあります。

でも他の干支は全部動物ですよ。なんで辰だけ植物なの、「龍」の方が理にかなっていると思うけど、と、こういうのは屁理屈というのかな。ちなみに漢字を調べたら、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥となっています。ということはやっぱり勝手に動物をあてはめたのかな。人の知恵というか、ユーモアというか、楽しくなります。文化とはこういう事なのかと、これも屁理屈かな。

閑話休題。

2011年は天変地異の年でしたね。日本を初めとして地球上で地震がありました。自然の災害に加え、人災と言ってもいいと思うの

ですが、原子力発電所の放射能漏れがありました。

被害の方から見ていけば、どんどん落ち込んでいきますが、困難に立ち向かう人たちが、援け合う人たちの方から見ていくと、人間の素晴らしさにいっぱい感動をもらいました。2012年は良かったことを引き継いで喜びあえる年にしたいですね。

我が事業協会の2011年は、杉江能楽堂で能をやれたことや、大阪音楽大学と音楽世界旅を続けていること、手回し蓄音機を寄贈してもらって古き良き音に触れたこと、また、音楽家のコンサートの継続と自泉会館から文化を発信していると、少しは思えました。

2012年の新しい事は、小学生から高校生までを対象とした自泉ジュニアコンサートを実施します。また、マドカホール、浪切ホール、自泉会館と三館合同で演劇作品を創ろうとしています。その脚本、演出を20代・30代の人に託したことで、未来へ向かっての新しい風を吹かそうとしています。

辰と言う漢字が木が茂り形を整えていく意を表しているということなら、まさに自泉会館で岸和田の文化を茂らせて、新しい風を吹かす2012年にしましょう、みんなの力で。

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。



染色画家

「吉田 太郎」

岸和田市では、染色画作者の多いことに市外の人たちから驚きの声を聞くことがよくある。日本伝統の染色工芸を、紋様の世界から「創作染色絵画」という新しいジャンルへと開拓し多くの後進を育て上げたのが吉田太郎（1905～1989）である。

吉田太郎は1905年（明治38年）9月淡路島に生まれる。兵庫県立洲本中学を2年で中退後カネボウにて染色・図案の仕事に従事する。この時期染色に出会ったことが、染色を絵画の技法として確立することにつながった。

1924年（大正13年）、青木大乘が天王寺に新燈社洋画研究所を設立。入門し油絵を学ぶ。

昭和初期にはプロレタリア演劇にのめりこみ、新燈社のメンバーで築地座という新劇の公演をし、主演・演出・舞台装置で活躍。この時期には、宇野重吉、滝沢修他多くの錚々たる演劇人達とともに仕事をしている。また、第2次世界大戦中にかけて、NHK大阪放送局放送劇団の演出部で働き、演出・物語の創作・放送など多彩な仕事振りを見せるが反戦発言を憲兵隊が知るところとなって追われる身となり、ソウルに逃れここで舞踊団のマ



磯の崎漕ぎたみ行けば近江の海
八十の湊に鶴さはに鳴く 高市黒人(万葉集)

ネジャー・演出などをするが再び追われ終戦の直前に帰国、1945年から岸和田に居住する。

岸和田においても、演劇指導を活発に行い多くの演劇人を育てる一方、絵画制作技法を染色に確立する。1955年染色グループ「染美会」を発足させ、この年第1回展を開催する。1967年、更に“新しい創作染色活動”を目的に謳い「染美会」を再出発させる。

1977年、第34回染美会展をレニングラードで開催し見事な作品を展示。作品への賞賛を得るとともに日ソ友好文化交流の架け橋の使命も果たした。

絵画制作の境地として、早くから日本人の美意識の史的研究を深め、万葉集に到達。その作歌の心情を深く知るために1960年代から歌われた現地を訪ね歩き、そのスケッチから染色作品を作り始め、1985年、画集「吉田太郎 万葉の旅」が刊行された。1985年はまた、「染美会」の30周年であり、50回展を開催。まさに、揺ぎ無い吉田太郎の「ろうけつ染めによる絵画制作と万葉の美」の結実を見ることができるのである。

参考文献:「ろうけつ染作品画集吉田太郎万葉の旅」八宝堂

読書離れが著しい昨今、子どもたちに良質の本を読み聞かせ、紹介する。そんな活動を20年以上にわたり続けているのがボランティア団体の「岸和田市子ども文庫連絡会」だ。今回はその活動内容について顧問の河合昌子さん、代表の藤本直栄さんにお話を伺ってきた。



地域の文庫が集まって発足

岸和田市子ども文庫連絡会（岸子連）の発足は1990年。それぞれの地域で各々の活動を行っていた「家庭文庫」や「地域文庫」などが集まり、互いに励ましあい、より良い児童文化を育てたいと願って発足した。本やおはなしを通して、子どもたちが想像力や感受性を養い、生きる力を育む手助けをすることを目的としている。

「それまでは、学校からお話会の依頼があっても、岸和田に対応できるグループはありませんでした。ですから他県のかたに協力してもらったこともあると聞いています」と話してくれたのは藤本さん。「それを自分たちでもできるようにしようというのも、発足の理由のひとつだと思います」と河合さんは説明する。

多種多様な活動内容

図書館や学校と連携をとりながら活動。

現在の主な活動内容は「文庫活動」「おはなし配達」「学習会」「絵本とお話を楽しむ会」。そして分科会として「ストーリーテリング」「ブックサロン」「アンガス」



学習会

がある。

「文庫活動」は家庭文庫、地域文庫、公民館文庫が定期的に、本の貸し出しやおはなし会、お楽しみ会などを実施。

「おはなし配達」は市内の小学校へ出かけて絵本の読み聞かせをしたり、ストーリーテリング（素話）やブックトーク（テーマを決めて本を紹介）などを行っている。

「学習会」はお話配達にむけての勉強会。「絵本とお話を楽しむ会」は親子で絵本やおはなしに親しむための会。（保育つき）

分科会の「ストーリーテリング」はおはなしを語る練習会。「ブックサロン」は絵本や読み物を含めて本を紹介しあったりブックトークについて学んでいる。「アンガス」では作家について研究会会員同士が発表し合っている。

感動すら覚える「おはなし配達」

このような中で、特に「おはなし配達」は、直接子どもたちと触れ合う機会でもあり、「子どもたちに喜んでもらえるのが嬉しいです」「おはなしを始めると、子どもたちの目がキラキラしてくるんです。感動する瞬間です」と河合さんに藤本さん。

現在、会員は60名。しかし、常時おはなし配達に出かけることができるメンバーは、その3分の1とか。

入会に条件や制限はなく、活動内容の全てに参加する必要もない。特に「絵本とお話を楽しむ会」は保育つきなので、子どもたちに良質の本を読み聞かせたい、親子で絵本を楽しみたいというお母さん方にはうってつけだ。

「本を読んであげたりするのは、抱っこするのと同じ。愛情表現なんです。幸せな時間を子どもと共有できます」

最後に語ってもらった言葉が印象的だった。

（取材 歯黒猛夫）

今年最初の「岸和田慢歩」は散歩気分で楽しめる短距離コース。岸和田駅からも近く、足を伸ばせば岸和田城や蛸地蔵まで楽しむことのできる、別所町～野田町内をお楽しみください。

理事 藤田保平・齒黒猛夫

①岸和田天神宮

創建は正平17(1362)年頃、沼村の長・沼間将監が自宅邸内に京都八坂神社の分霊を勧請したのが起源と伝えられる。9月祭礼には沼町、筋海町、下野町、藤井町、並松町、別所町、10月祭礼では山下町、作才町が宮入を行う。

②一本松

旧牛滝街道沿いに立つ一本松。由緒などが書かれているであろう掲示板は、文字が消えて解読不明。

③地藏尊

三叉路の正面に祀られた地藏尊。ここを左に進むと熊野神社跡に到着。

④熊野神社跡

明治時代に岸和田天神宮に合祀されるまで、別所村の氏神であった熊野神社が鎮座。現在は児童公園。

⑤十輪寺

岸和田藩五代藩主岡部長著が元文4(1739)年に発願して建立。「泉州岸和田十輪寺の前で、お徳殺せば首がない」と謡われる、伝説の「お徳石」が境内に残されている。

⑥旧和泉高校校舎

現在の和泉高校が1971年に移転するまでの校舎。敷地は泉南高等女学校、岸和田高等女学校と同じだが校舎は昭和時代の落成なので、この校舎に小篠綾子さんは通っていないが、三女のミチコさんはここに通学していた。

⑦照日山(岸和田古城跡)

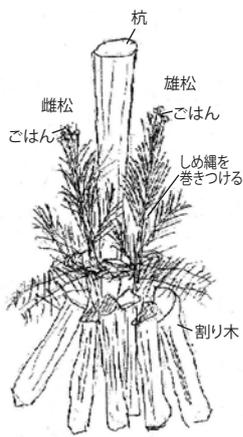
現地に移築されるまで、岸和田城があったとされる場所。南北朝時代、和泉国の代官となった和田高家がこの地に城を構え、大阪府も1921年に「和田氏居城伝説地」の石碑を建てたが真偽のほどは不明。かつては雑草の生い茂る丘だったが、現在は造成されて住宅地となっている。

スタート地点は「岸和田天神宮」。初詣や天神戎、岸和田祭の時には賑わいますが、普段は落ち着いた佇まいを見せています。岸和田駅に向いた大鳥居ではなく北側の鳥居をくぐり、参道を通り抜けて交差する道路を右折。直進して「別所町西」の交差点を左折で細い道へと入り、道なりに歩くと「一本松」が見えてきます。そのまま直進して信号を渡り、まだまだまっすぐ歩くと道は二又に分かれ、正面に「地藏尊」が祀られている住宅の壁が見えます。この左側の道を進むと、今は公園になっている「熊野神社跡」です。そのままと来た道に戻り、先ほど渡った信号を左折。うどん屋の角の交差点を直進し、東光小学校を過ぎて次の信号も直進すると右手側に「十輪寺」。まっすぐ進んで岸城中学校角の交差点を右折すれば岸和田市福祉センター、かつての「和泉高校」があります。そして、福祉センター前の道を左折すれば「照日山」に到着です。多少、交通量の多い道路もありますが、路地を辿れば車も少なく、安全な通行が可能。足を伸ばせば岸和田城もすぐ近くで、かつてお城があったかもしれない場所と今のお城がある場所を見比べることも可能です。

岸和田あ・ら・が・ら・と

会員 奥野 芳子

心をこめて新春を寿ぐ



「もういくつねとお正月…」指折り数えた子供時代、下着を新しくした大晦日、それ程、迎え来る年ひとしほに一人の思いいれがあった。

ここ東葛城地区も時代の流れとともに昔ながらの風習も消えつつ、お正月だけは家々のしきたりや味を伝え残したいと、新年を迎えるに色々な準備がなされます。

十二月二十八日(八は末広がり)、出入口にしめ縄(その年の藁で捻ったものに裏白、譲り葉、橙をつけた)を。

門には大きい立派なしめ飾り、玄関の両サイドに神が宿るといふ三枝のついた雄・雌の松に半紙を巻き、水引きをかけ、飾る。

庭にあっては、杭を打ち、その回りにちやの木(割り木)を六本、雄・雌の松、しめ縄を。元日の朝その松の先にごはんをお供えする。

すべての出入口は七・五・三(藁を左に捻

りその間から七・五・三筋わらを出す)井戸には二・五・三(にごさん)。

お便所には四・五・三(よごさん)のしめ縄、その他その年よく働いてくれた農機具、車、台所等にも。

鏡餅は二枚の裏白(裏まで白い、潔白)その上に重ね餅(めでたい時の食べ物)

串柿(外はニコニコ中六つまじく)

昆布(喜こんぶ、子生)橙(代々続く様)仏壇、神棚、又お世話になった、よく働いてくれた物へお供えする。

仏様は勿論、お墓の花も松竹梅に。

因に「元日の朝の雑煮は白みそで当主が炊く」を一言。

新年を迎える思いが年々薄らいでいく昨今、今一度、一年の節目として心新たにしたいものです。

岸和田文化事業協会 理事さん リレーインタビュー



■ ホール開館の感謝

理事 寺本 郁子

私が専務理事を務めています公益財団法人アルカディア音楽芸術財団は、2010年6月に内閣府より認定を得て、(公財)アルカディア音楽芸術財団として新たな出発をし、今年創立32年を迎えました。これまで演奏活動、音楽を通じた福祉活動、国際文化交流の3つの柱で活動してきましたが、本年度よりホール及び音楽練習施設の運営という新しい事業も行います。2012年7月(予定)に長年の悲願でもありました財団活動の本拠地となるホールとサロンを兵庫県芦屋市にオープンする予定です。ホールは、120席位まで収容可能な可動式ホールです。特にリサイタル、室内楽等のコンサートに適した音響に設計しています。音楽以外の芸術分野でも、美術の個展そして舞踏のレッスン等に使用可能な広さを兼ね備えています。また学術の分野でも講演会、レクチャー等に活用して頂きたいと思ってお

ります。

サロンは、30人位まで利用可能な多目的なサロンです。もちろん本格的な音楽練習場にも使えますし、少人数の様々な集まりに活用して頂く事もできます。これらの施設がグローバルな文化の発信地点となり文化向上に貢献して、演奏者や聴衆の皆様にも末長く愛されるホールとなりますよう、そしてさらに発展していきます事を心より願っています。

これまで財団の成長を見守り、温かく支えて下さいました多くのサポーターの皆様方に、心から厚く御礼と感謝を申し上げます。

今後共これまで同様に温かいご支援お力添えを賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

〔(公財)アルカディア音楽芸術財団専務理事・ソプラノ歌手〕

■ 文化の芽吹く 岸和田・泉州

広報部会長 常務理事 和田 正則



28年間のサラリーマン生活に終止符を打ち、私が生まれ故郷の岸和田市でライブ機能を併設した喫茶店を開業して1年半になります。28年間はサラリーマンとして食品原料を扱う仕事をしてきたものの、喫茶業については全くの素人で、最初の半年はドタバタの状態であったと思います。今は毎日、毎日、コーヒーや紅茶を作ってはお客様に出しています。日曜と祝日は喫茶店を休みにしていろいろなイベントを企画しています。

最近イベントを持ち込んで頂く方が沢山いることにびっくりしています。

イベントの内容は多様で、音楽を中心に、絵画、服飾デザイン、アクセサリ創作、料理、俳句、朗読、落語、等々です。プロの方だけでなく、アマチュアの方も沢山い

ます。

一つの喫茶店に持ち込まれるだけで、2011年には年間約70件もありました。この様子をコーヒーカウンターから眺め、文化の芽吹きを感じてきました。

同時にこれらの文化活動を支える拠点の重要性を感じています。岸和田市には浪切、マドカ、自泉会館の様なホールや市立の公民館があり、文化活動の拠点となっています。しかし私から見るともっと気楽に使える場がたくさん必要であると思っています。これらの文化活動の拠点が「満席で予約が難しい。」と言う日が来ることを目標に、野田町の喫茶店で微力ながら草の根活動を支援したいと思います。

喫茶店の本業も忘れることなく！

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

第27回自泉フレッシュコンサート ～秋に思いをはせて～

平成23年10月29日(土)に、ピアノとソプラノのコンサートを自泉会館ホールで実施し、47人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 今日は久しぶりにコンサートに来て良かったです。ピアノもオペラも本当に素敵で感激しました。
- ソプラノは、最後にまさかの人形になりきって歌うというサプライズがあり、楽しめました。
- 歌の伴奏をされている方の表情が好きです。
- このような行事があることは、音楽を広げるためにも、また、音大を卒業した方にとっても、とても良い機会だと思いますので、これからも続けていってください。



会員対象事業 「ストレッチ体操講習会」

平成23年11月30日(水)に、平瀬理事に講師をお願いし、健康な生活を送るために、日常簡単にできるストレッチ体操を教えていただきました。



〈皆さんの声〉

- たまに身体を動かせてよかった。年一回ではもったいないので、数回して欲しい。
- 日頃の運動不足を感じました。身体の部分に意識を持つ大切さを知りました。
- 動きがバレエ的で楽しいですが、難しかったです。
- 日頃使わない筋肉を使う重要性を自覚しました。

蓄音機を使った昭和初期の レコードコンサート Vol.2

平成23年12月14日(水)の午後7時から、昭和初期にアメリカで製作された蓄音機とSPレコードを使ったコンサートを自泉会館ホールで実施し、14人の入場者がありました。



〈皆さんの声〉

- 蓄音機のコンサートは初体験であったが、耳に優しく心地よい時間を過ごさせてもらった。
- 日本の原風景を想像することができた。
- 蓄音機を初めて見た。動く仕組みも知りたいと思った。
- 曲及び演奏者に関する解説をもう少し詳しく聞きたかった。

第28回自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

平成23年12月17日(土)に、ピアノとテノールのコンサートを自泉会館ホールで実施し、59人の入場者がありました。



〈皆さんの声〉

- 初めて生でテノールを聴きました。男性の女性への気持ちがとても心に響く歌声でした。ピアノも力強く、でも上品な感じで感動しました。
- 歌もピアノもとても心に響くものでした。音楽は、人の心を魅了する素晴らしいものだと思います。
- フレッシュコンサートは初めてですが、こんな風に若い方が近い距離で歌ったり演奏されるのを聴けて、とても楽しかったです。

岸和田文化事業協会の事業 Information

岸和田文化事業協会10周年記念事業
岸和田市市制施行90周年記念事業

岸和田ゆかりの画家小川翠村春

岸和田にゆかりの深い日本画家、小川翠村の作品展を開催します。

日 時:平成24年1月25日(水)~29日(日)
午前10時~午後5時

会 場:岸和田市立自泉会館展示室
入場料:無 料

岸和田文化事業協会10周年記念祝典

日 時:平成24年2月25日(土)
午後2時開会

会 場:岸和田市立自泉会館ホール・展示室
入場料:無 料

内 容:第1部 式典
第2部 イベント
会員による文化祭(舞台と展示)
第3部 懇親会

蓄音機を使った昭和初期のレコードコンサート vol.3

昭和初期の蓄音機で、昔懐かしいSPLレコードの音色を聴いてみませんか。

日 時:平成24年3月14日(水)
午後1時30分~2時30分

会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:無 料 (当日先着50名まで)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

音楽世界旅 VOL.7 フランス編

レクチャー・コンサート

“愛と音楽 吟遊詩人の旅”

国内外で40年近く活動してきたダンスリー・ルネサンス合奏団の
精鋭メンバーによる演奏をお楽しみください。

日 時:平成24年2月4日(土)午後2時開演

会 場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:お話:西岡 信雄

演奏:岡本 一郎(代表/リュート/サズ)
松井 智恵(ソプラノ/打楽器)
中村 洋彦(リコーダー/ラヴェル/ソクラムホルンほか)
野村明日也(リュートほか)

入場料:一般前売 2,500円

会員前売 2,000円(当日各300円増)

企画:大阪音楽大学音楽博物館

第1回自泉ジュニアコンサート

オーディションで選ばれた小学生~高校生によるコンサート。

日 時:平成24年3月4日(日)
午後2時開演

会 場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:無 料

第5回フレッシュプレミアムコンサート 未来へ~ここから~

平成23年度自泉フレッシュコンサート出演者の中から
推薦された方々によるコンサート。

日 時:平成24年3月17日(土)午後5時開演

会 場:マドカホール(岸和田市立文化会館)

入場料:前売 1,000円(当日各200円増)

文化情報

催 事	日 時	会 場	入場料・問合せ先
絵画展「第26回 隗展」	H24年1月26日(木)~29日(日) 午前10時~午後5時	マドカホール展示場	入場料:無 料 問合せ:岸和田美術の会事務局(072-445-1070)
第7回バレエ・セッション イン 浪切	H24年2月4日(土) 午後1時30分開演(午後1時開場)	浪切ホール大ホール	入場料:無 料 問合せ:バレエセッション浪切実行委員会(072-432-7527)
ストリングアンサンブル ラ・フォンテーヌ スペシャルコンサート with 晴 雅彦	H24年2月10日(金) 午後6時30分開演(午後6時開場)	自泉会館ホール	入場料:一般前売2,000円 大学生以下前売1,500円(当日各500円増) 問合せ:池上(090-1711-7815)
銀春座公演「貴方の声が聞きたくて」	H24年3月17日(土) 昼 午後1時30分開演(午後1時開場) 夜 午後4時開演(午後3時30分開場)	自泉会館ホール	入場料:1,000円(自由席) 問合せ:銀春座事務局(072-432-7527)

nouvelle fontaine vol.34

発行:岸和田文化事業協会
発行日:2012年1月15日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・小島栄子
歯黒猛夫・藤田保平・本郷元子

編集後記...

支援から復興へ。今年は「復興元年」です。
多くの人の人生を一瞬にして奪った東日本大震災、それに続く原発事故。暗闇の中から、人々を救ったのは「他人ごと」にしない人の心でした。
今、被災地の各地では文楽などの伝統芸能やカラオケ大会などが人々の心を和ませ、そして明日への希望に向けての活動が盛んに行われています。
震災直後、ある新聞に「冬は必ず春となる」と書かれていました。
春を誘う文化。今年もまたさまざまな方面の文化をお届けし、更に復興の力にもなれたらと思います。(小島)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索